

環境報告

クボタグループは、CSR経営の一環として地球環境保全を事業経営の最重要課題と位置付け、自らの事業活動が全方位で地球環境に配慮した企業グループとなるよう活動レベルを上げていきます。

基本方針

クボタグループ環境宣言

クボタグループは、地球規模で持続的な発展が可能な社会の実現を目指し、地球環境・地域環境の保全に配慮した企業活動を行います。

クボタグループ環境基本行動指針

- クボタグループは、すべての企業活動において環境保全に取り組みます。
 - 法令を遵守するとともに、自主的に具体的な目標を定め推進します。
 - 製品開発、生産、販売、物流、サービスなど企業活動のすべての段階で推進します。
 - 取引先企業においても、環境保全活動への理解と協力を率先して推進します。
 - 自然環境や生物多様性に配慮した活動を推進します。
- クボタグループは、地域社会との共生を図る環境保全に努めます。
 - 企業市民として、地域の環境美化・環境啓発活動に参画します。
 - 公害の未然防止など地域の環境保全に留意した事業活動に努めます。
- クボタグループは、環境保全に計画的に取り組みます。
 - 環境アセスメントを実施し、環境リスクの低減を図り環境汚染の未然防止に努めます。
 - 地球温暖化の防止、循環型社会の形成、有害化学物質の削減等の環境問題の解決に努めます。
- クボタグループは、環境管理を徹底します。
 - 環境マネジメントシステムを導入し、日常の業務に組み込み推進します。
 - 環境管理活動のP・D・C・Aサイクルが機能していることを自主的に監査し、常に高い目標に挑戦します。
 - 環境に関する啓発・教育活動を推進し、環境意識の向上を図ります。
- クボタグループは、環境コミュニケーションを積極的に推進します。
 - 環境情報をステークホルダーに対して速やかに、わかりやすく発信します。
 - ステークホルダーから、広く環境情報を収集し環境保全活動の見直しを行います。

新・環境保全中期計画

クボタグループの環境経営の基本方向を実行するものとして、環境保全中期計画を策定し、推進しています。2009年度より新・環境保全中期計画として、グループ全体で推進しています。

新・環境保全中期計画及び2009年度目標と実績

新・環境保全中期計画の2009年度目標に対する実績は、「CO₂の削減」及び「廃棄物の削減」については、2009年度より強化して実施した削減対策の効果が現れたこと等により、目標を超過達成しました。2012年度の最終目標を達成すべく、2010年度以降も引き続き削減活動を推進していきます。一方で、「物流CO₂の削減」、「水資源の節約」、「PRTR法対象物質の削減」については、2009年度目標を達成することができませんでした。主な理由として、売上高減少に伴い原単位が悪化したことが挙げられます。「製品に含まれる化学物質の削減」については、農業機械や環境機器の主要な部品において、代替化が困難な部品が残っているため、目標は未達成となりました。2010年度以降は、目標を達成すべく、それぞれの取り組みでより一層の対策を推進していきます。

課題	取り組み項目	管理指標	基準年度	目標		実績	自己評価※	今後の課題、対策(2009年度目標未達理由)	目標		
				2009年度	2009年度				2010年度	2011年度	2012年度
①地球温暖化の防止	CO ₂ の削減	CO ₂ 排出原単位	2008	▲1%	▲1.2%	◎	●生産工程におけるCO ₂ 排出削減技術の開発 ●運用改善やムダ取りなどによる更なる省エネ活動の推進 ●高効率設備の更なる導入 ●見える化の導入によるエネルギーのリアルタイム監視や原単位管理	▲4%	▲7%	▲10%	
			(2004)	(▲0.2%)	(▲0.4%)	◎		(▲3.2%)	(▲6.2%)	(▲9.3%)	
	(1990(本体生産))	(▲16.7%)	(▲19.4%)	○	(▲19.2%)	(▲21.7%)		(▲24.2%)			
	CO ₂ 排出量	2008	▲1%	▲17.0%	◎	▲4%		▲7%	▲10%		
物流CO ₂ の削減	CO ₂ 排出原単位	2008	▲1%	+1.0%	×	●(未達理由)売上高の減少に、排出量の削減幅(▲15.1%)が追いつかなかったため	▲2%	▲3%	▲4%		
		(2006)	(▲6.8%)	(▲4.9%)	×		(▲7.7%)	(▲8.7%)	(▲9.6%)		
②循環型社会の形成	廃棄物の削減	廃棄物排出原単位	2008	▲2%	▲6.0%	◎	●分別管理の更なる徹底 ●再資源化委託先の開拓	▲4%	▲6%	▲8%	
		(2004)	(▲9.9%)	(▲13.6%)	◎	(▲11.7%)		(▲13.5%)	(▲15.4%)		
水資源の節約	水使用原単位	ゼロ・エミッション達成事業所数比率	-	40%	45%	○	50%	60%	70%		
		2008	▲1%	+8.9%	×	●(未達理由)売上高の減少に、使用量の削減幅(▲8.5%)が追いつかなかったため	▲2%	▲3%	▲4%		
③化学物質の管理	PRTR法対象物質の削減	排出移動原単位	2008	▲2%	▲0.5%		×	●(未達理由)売上高の減少に、排出移動量の削減幅(▲16.4%)が追いつかなかったため	▲4%	▲6%	▲8%
			(2004)	(▲30.1%)	(▲26.9%)	×	(▲31.5%)		(▲32.9%)	(▲34.4%)	
	製品に含まれる化学物質の削減	RoHS対象物質削減機種比率	-	25%	24.2%	×	30%		35%	40%	

◎目標超過達成 ○目標通りに達成 ×未達成

環境経営の基本方向

地球規模で持続的な発展が可能な社会の実現を目指すクボタグループの環境経営の基本方向として、「地球温暖化の防止」「循環型社会の形成」「化学物質の管理」の3項目を定め、その基盤として「環境マネジメントシステム」と「環境コミュニケーション」の充実を図っていきます。



担当役員より

株クボタ 専務執行役員
技術開発推進部・
環境管理部担当
篠原 栄作



クボタグループの 目指す環境経営

クボタは2010年4月で120周年を迎えました。創業当時と今日では、社会情勢は大きく異なりますが、「モノづくり」を通して社会の発展や地球環境の保全に役立つ企業でありたいという思いは一貫し変わっておりません。

クボタグループは環境保全をCSR経営の最重要課題と捉え、事業活動に伴う環境負荷低減に取り組んできました。

2009年度に新・環境保全中期計画を策定し、CO₂削減を中心とした環境負荷低減活動を強化し、グローバルに展開しています。また、2010年5月に、これらの環境保全への取り組みについて環境大臣に「エコ・ファーストの約束」を行い、業界トップランナーとして「エコ・ファースト企業」に認定されました。

これを機に、環境経営の更なる追求を目指し、以下の2点を重点的に推進していきます。

- クボタグループの事業所から発生するCO₂や廃棄物等の環境負荷の低減に対し、これまで以上に積極的に取り組み、新・環境保全中期計画の最終目標を達成する
- 製品の環境性能向上や、環境汚染の浄化・環境負荷の低減のための技術開発を促進し、地球温暖化防止、資源循環、化学物質リスクの低減に貢献する

上記の課題に対し、グループ一丸となって環境経営のレベルアップを図り、持続可能な社会の実現に向けて、企業としての社会的責任を果たしていきます。